

平成29年度かわさきパラムーブメント推進フォーラム（第1回） 議事録

1 開催日時 平成29年8月4日（金）16時30分～18時30分

2 開催場所 川崎市役所 第3庁舎18階 大会議室

3 出席者

【委員】 福田市長（共同委員長）、成田委員（共同委員長）、大塚委員、小倉委員、菊地委員、丹野委員、杉山委員、中澤委員、北條委員、山田委員、横島委員、田中氏（須藤委員代理）、川辺氏（土岐委員代理）、吉田氏（中村委員代理）

【事務局】伊藤副市長、鈴木市民文化局長、市民文化局オリンピック・パラリンピック推進室 原室長、井上担当課長、一ノ瀬担当課長、成沢課長補佐、太田担当係長、富山担当係長、田中職員、健康福祉局障害保健福祉部 宮脇部長、教育委員会事務局総務部 古内企画課長、市民文化局コミュニティ推進部 寺澤協働・連携推進課長、市民文化局市民文化振興室 永石担当課長、市民文化局市民スポーツ室 松長根担当係長

4 議題

(1)かわさきパラムーブメント第1期推進ビジョンに基づく平成29年度の取組状況について

（公開）

(2)かわさきパラムーブメント第2期推進ビジョンの策定に向けて（公開）

(3)かわさきパラムーブメントにおける市民参加の取組について（公開）

(4)委員からの新規提案について（公開）

(5)その他（公開）

5 傍聴者 4人

6 会議内容

〈開 会〉

（原オリンピック・パラリンピック推進室長）

みなさん、こんにちは。定刻になりましたので、ただいまより平成29年度かわさきパラムーブメント推進フォーラムを開催させていただきます。議事に入る前に、進行は、事務局でありますオリンピック・パラリンピック推進室の原が務めさせていただきます。着座にて進めさせていただきます。まず、何件か事務連絡を伝えさせていただきます。始めに本日のフォーラムは公開となっておりますので、傍聴を許可しておりますことを御了承いただきたいと思います。また、会議につきましては、発言内容を記録した後ほど発言者の氏名等を含めてホームページ等で公表させていただきますので、よろしくお願いいたします。本日、傍聴の方がいらっしゃいますので、会場に掲示しております遵守事項をお守りいただきますようお願いいたします。

続きまして、お手元に配付しております資料の確認をさせていただきます。まずは次第がございます。その次に座席表、委員名簿、要綱、続きましてA4で最後にチラシ等がついている13ページものの資料1、A3横の2枚もので資料2、次にA41枚の資料3、A4横7ページもので資料4-1、A4横の8ページもので資料4-2、A4縦の1枚もので資料5、それ以外に「誰でもスポーツ広場」のチラシが配付されているかと思っております。不足等ございましたらお申し付けください。

皆様、よろしいでしょうか。続きまして、本日の出席委員は、委員名簿のとおりでございますが、今、中森委員と遠藤委員がまだお見えになっていない状況でございます。そして、土岐委員の代理として川辺様、須藤委員の代理として田中様、また、急遽、中村委員の代理で吉田様が着席されております。須藤委員代理の田中様につきましては、少し遅れて来られる予定でございます。

続いて、委員の退任と新規の就任について御報告させていただきます。以前、元・川崎フロンターレのプロモーション部長でございました天野春果様が、所属されていたフロンターレを退社され、この4月から東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会に出向されたため、また、元・特定非営利活動法人ママプラグ代表のロー紀子様が、同法人を退社後、現在アメリカに在住されているということで、いずれも先月末をもって御退任されることになりましたので御報告させていただきます。続いて委員の就任でございますが、(株)studio-L代表取締役で、東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員の街づくり・持続可能性委員会の委員を務められております、山崎亮様に新たに委員をお願いすることとなりました。本日、山崎様は欠席でございますが、山崎様は、地域の人々が抱える課題を自分達で解決していくための仕組みを設計する「コミュニティデザイン」の第一人者であります。その知見をパラムーブメントの推進に活かしていただくために、加わっていただくことになりました。

そして、今回は、市民文化局担当の伊藤副市長がフォーラムの様子を拝見させていただきたいということで同席しておりますので、御報告させていただきます。

(伊藤副市長)

伊藤でございます。よろしくお願いいたします。

(原オリンピック・パラリンピック推進室長)

続きまして、今年度から事務局の体制が大幅に変わりましたので、御報告させていただきます。まず、局長が唐仁原から鈴木に交代となりました。

(鈴木市民文化局長)

鈴木でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

(原オリンピック・パラリンピック推進室長)

室長は引き続き私ということになりますが、担当課長が山本からオリンピック・パラリンピック推進担当の井上になりました。

(井上オリンピック・パラリンピック推進室担当課長)

井上でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

(原オリンピック・パラリンピック推進室長)

今年度、新たに英国の事前キャンプを受け入れるための担当課長として、一ノ瀬が配属されました。

(一ノ瀬オリンピック・パラリンピック推進室担当課長)

一ノ瀬でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

(原オリンピック・パラリンピック推進室長)

その他、当室職員も5名から9名と非常に御配慮いただいて増えております。こうした中で皆さんにパラムーブメントの取組の御意見をいただきながら、事業を推進してまいりたいと思っております。

それでは、福田市長から皆様に御挨拶をお願いしたいと思います。

《1 あいさつ》

(福田市長)

改めまして、皆さんこんにちは。本日は、2月以来の開催ということで、今年度初めての推進フォー

ラムになります。大変お忙しい中、お集まりいただきまして誠にありがとうございます。今、報告があったように、委員の変更等ありますけれども、さらにパワーアップしてやっていきたいと思っております。

今月の25日をもちまして、東京オリンピック・パラリンピック大会までちょうど3年ということになりますので、これからさらに盛り上がっていくと思います。後で報告があるかと思いますが、8月20日に障害者スポーツの体験イベントをラゾーナ川崎のルーファ広場で、週末のものすごく混み合う所で、見える化をしっかりとやっていくイベントを行うとともに、これから本日お諮りします第2期の推進ビジョン、今年度で第1期の推進ビジョンがいったん区切りになりまして、新しい2期の推進ビジョンに入るということで、これまでの取組をしっかりと検証して、行政としてもこれからパラムーブメントがあらゆる施策に紐付いているような体制にもっていききたいと思っております。また、さらに重要なことは、「市民の皆さんをどう巻き込んでいか」、その仕掛けがなければムーブメントに決してなりませんので、その仕掛けを委員の皆様にご相談させていただき、市民全員のムーブメントになるよう頑張っていきたいと思っておりますので、ぜひ、今日も忌憚のない御意見をいただいて、より良い2期ビジョンにしていききたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。以上です。

(原オリンピック・パラリンピック推進室長)

ありがとうございました。続きまして、共同委員長でございます、成田委員に御挨拶いただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

(成田共同委員長)

皆さんこんにちは。私事ですが、6月にドイツで開かれた「ベルリンオープン」という試合に出て、まさかの平泳ぎで日本新記録を出すことができたのですが、やはり海外に行ってしまうのは、エレベーターが広い。車いすが何台も入れるとか、今日、川崎駅を下りて、それをまた痛感してしまいました。大江戸線や営団地下鉄には、駅のホームで、「この6号車を降りればエレベーターがあります」とか全部表示があるのですが、南武線はそれがないのです。なので、ぜひぜひ、それは地元からやっていった方が便利になっていいと思います。何号車に行けばエレベーターがある、こちらに行けば階段があるとか、一目瞭然な図があればいいのにと、いつも登戸駅で乗るときに「どっちだったかしら」と考えるので、そのようなものがあれば良いと感じましたので、ぜひ地元からやっていかなければいけないことはやっていきたいと思っておりました。あとは、神奈川県のアmbasadorとして、神奈川県立体育センターにパラリンピック専用の宿泊もできる施設が今作られているのですが、この間、そちらの関係者の方と話をさせていただいて、「車いすの場合は、こういうほうが便利ですよ」という話をしてきたところなので、ぜひ、また皆さんの意見をお聞きしながらもっともっと住みやすい川崎にしていききたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

(原オリンピック・パラリンピック推進室長)

ありがとうございました。なお、今回、団体役員との交替に伴いまして、フォーラム委員の交替がございましたので、一言御挨拶いただければと思います。川崎市スポーツ協会の丹野です。よろしくお願いいたします。

(丹野事務局長)

川崎市スポーツ協会事務局長の丹野と申します。よろしくお願いいたします。今回のパラムーブメントの推進ビジョンの中のリーディングプロジェクトである「パラスポーツやってみるキャラバン」に関わっております。スポーツ協会としても一生懸命やっておりますので、今後ともよろしくお願いいたします。

(原オリンピック・パラリンピック推進室長)

最後に、本日御出席いただいております杉山委員でございますが、所用がございまして6時頃に御退席される予定でございますので皆様、予め御了承いただければと思います。

それでは、本会の進行につきましては、委員長である福田市長が務めますので、よろしくお願いたします。また、共同委員長でございます成田委員には、会の進行の補助をお願いしたいと存じますので併せてお願いしたいと思います。それでは、福田市長、よろしくお願いたします。

《2 かわさきパラムーブメント第1期推進ビジョンに基づく平成29年度の取組状況について》

(福田市長)

それでは早速、議事に入ります。次第2でございますが、資料1「かわさきパラムーブメント第1期推進ビジョンに基づく平成29年度の取組状況について」を御覧ください。ここでは、本フォーラム発のリーディングプロジェクトや今年度の新たな取組等を事務局から説明させていただきます。それでは、事務局より報告をお願いします。

(井上オリンピック・パラリンピック推進室担当課長)

オリンピック・パラリンピック推進室の井上でございます。それでは説明をさせていただきます。資料1でございますが、今年度のリーディングプロジェクトの取組状況でございます。

まず、1番目の「アクセシブルシティかわさき」でございます。概要といたしましては、車いすユーザー等の視点から飲食店等におけるバリアフリー情報を取材して、Web あるいは紙媒体で情報発信を行うものでございます。今年の4月から5月にかけて、市内のぐるなび加盟店20店舗を対象にバリアフリー対応状況について、店内の調査及びインタビューを実施したところでございます。調査結果につきましては、今後、ぐるなび様のホームページ等で発信をしていく予定でございます。

続きまして2番目、「パラスポーツやってみるキャラバン」でございますが、小学校や地域の寺子屋において、障害者スポーツ体験講座を実施するものです。今年度は、市内の公立小学校20校で実施するほか、私立学校でも実施する予定です。また、地域の寺子屋では、5か所で実施予定となっております。

1ページおめくりいただきまして、2ページ目の3番「インクルーシブなかわさきハロウィン」です。例年10月に開催されております「カワサキハロウィン」でございますが、昨年度、車いすユーザーの参加募集を行いました。今年度は、引き続き車いすユーザーの参加を促すとともに、「ダイバーシティ」をテーマに掲げて実施する予定でございます。なお、詳細は、後ほど次第5の「委員からの新規提案」の中で土岐委員代理の川辺様から御説明いただく予定です。

4番目の「宿泊施設等バリアフリー化促進プロジェクト」でございますが、こちらは、3つの事業で構成されており、まず「(1) 宿泊施設のバリアフリー化支援」は2年目の取組ということで、今年度、公募で3つ程度宿泊施設を選び、施設的なハード面のバリアフリーだけではなく、ちょっとした心配りでできるソフト面でのバリアフリー対応というものをモデル的にコンサルティングして、その結果を市内の各宿泊施設に展開していきたいと考えております。

次の「(2) 観光モデル地区のバリアフリー調査」では、将来的に民間主体のユニバーサルツアーの商品開発を見据えて、川崎駅と武蔵小杉駅の周辺を中心にバリアフリー化、あるいは多言語化の事前調査を実施してまいります。

続いて「(3) 生田緑地におけるバリアフリー観光に関する業務」でございますが、こちらは2年目の取組となりますけれども、前年度の現状調査を元に、バリアフリーマップの作成やユニバーサルツアー商品の開発に向けた検討等を行っていくものでございます。

1ページおめくりいただきまして、3ページ目、「かわさきパラムーブメントの理念浸透の取組」ということで、先程、市長のあいさつにもございましたが、7月12日付けで委員の皆様にはチラシをお配りしましたが、今月20日(日)に、川崎駅直結の「ラゾーナかわさき」におきまして、「かわさき PARA フェス 2017 夏」を開催いたします。資料の6ページをご覧ください。チラシをつけてございます。こちらの内容としましては、水色のところがございますように「ブラインドサッカー」「パラ陸上義足体験」「車いすバスケットボール」「ボッチャ」「デジタル射撃」といった5種類のパラスポーツ体験、あるいはトークショー、

音楽ライブ、パフォーマンスなど、様々な催しで多くの方々にパラムーブメントを知っていただき、また、障害についての理解を深めていただくきっかけを提供していきたいと考えております。恐れ入りますが3ページにお戻りいただきたいと思っております。

3ページの「(2)パラムーブメントのロゴ及びプロモーション動画の作成」ですが、こちらは、既に6月6日に皆様にメールにて御報告させていただいておりますが、記載がございますとおり、「パ」というロゴを作成いたしました。デザインについては、パラムーブメントの理念あるいは考え方が、市のブランドメッセージ「Colors, Future! いろいろって未来。」と同じ方向性であることから、ブランドロゴをベースとして、赤・緑・青という光の三原色を使って、混じり合うことでどんな色でも作り出せる、そういった多様性を表現するものとなっております。

また、合わせてステートメントを作成いたしました。9ページを御覧ください。こちらがロゴと一緒に作成したステートメントになります。読み上げさせていただきますが、「めざせ！やさしさ日本代表！みんなの違いを活かせるチーム。障がい、年齢、人種やLGBT、いろんな個性をチャンスにしよう。川崎らしく、力強く。未来を変えていく力は 私たちの中にある。かわさきパラムーブメント」ということで、このステートメントでは、一人ひとりの違いを受け入れて、その違いを活かして、多様性あふれる豊かな未来を作るためには、市民一人ひとりがそのチームのメンバーであることを伝え、自ら行動することの重要性を訴えるというものとなっております。

また、併せまして、30秒のプロモーション動画を作成いたしましたので、御覧ください。

～モニターにて動画鑑賞～

今、御覧いただいた動画は、ロゴをアニメーション化して、「そっとささえる」「ハードルをなくす」といったメッセージを添えて、子どもからお年寄りの方まで、幅広い方に関心を持っていただけるものいたしました。

こちらのロゴは、パラムーブメント関連の事業やイベント等におきまして幅広く活用していただくほか、市民の皆さん、団体、事業者の方にも積極的に活用していただきたいと考えております。個人あるいは団体、どなたにでも無料で使用できますので、ぜひ委員の皆様にも御活用いただきたいと思っております。

また、今の動画は、パラムーブメントの特設サイトで視聴できるほか、川崎駅のアゼリアビジョン、各区役所のデジタルサイネージ等で発信しているところでございます。

恐れ入りますが、また3ページにお戻りください。理念浸透の取組として、「(3)事業者向けのセミナーの実施」ということで、こちらは、ぐるなび様と本市の主催、川崎商工会議所様の共催で、8月31日に飲食店、宿泊施設、商業施設の事業者を対象にセミナーを行うものです。13ページにそのちらしを付けてございますが、「バリアフリーをビジネスチャンスに変える」と題しまして、基調講演、パネルディスカッションを通じて、障害者や高齢の方々への接し方等について、役立つ情報を提供したいと考えております。なお、このパネルディスカッションには、大塚委員に御参加をいただく予定でございます。

資料4ページをお開きください。「その他の取組状況」ということで、リーディングプロジェクト以外の取組状況でございますが、「1 各スポーツセンターにおける障害者スポーツの取組の推進」については、各区のスポーツセンターで今年度1回ずつ「障害者スポーツデー」を試験的に開催し、来年度以降に本格的な実施を目指すものです。その第1回目が、先週7月29日(土)に等々力アリーナで、車いすバスケットボール教室及びスポーツ車いす体験会を開催いたしました。また、明日になりますが、8月5日に多摩スポーツセンターで障害者水泳教室を開催するほか、9月には幸スポーツセンター、12月には高津スポーツセンターなど順次開催予定でございます。

続きまして、2番目「ホテルシップの受け入れに向けた取組」ということで、2020年の東京大会を迎えるに当たり、宿泊施設の不足が懸念されております。そこで、臨時の宿泊先として、港に停泊されたクルーズ船を宿泊施設にして活用する「ホテルシップ」というものが最近注目されておりまして、国では、このホテルシップを検討するため、内閣官房のオリパラ推進本部の下にワーキンググループが設置されたところでございます。本市におきましても、こうした動向を踏まえて、ホテルシップあるいは大型ク

ルーズ船の入客等に向けた全庁的な取組を推進していくため、庁内のパラムーブメント推進本部の下に「インバウンド等誘客推進会議」を設置したところでございます。

なお、次ページには、ホテルシップの資料をお付けしておりますので、後ほど御参照いただければと思います。

(福田市長)

それでは、今の報告について、御意見や御質問などありましたら、ぜひお願いしたいと思います。杉山さん、何かありますか。

(杉山委員)

動画が非常にいいなと思ひまして、デザインはどのような方がされたのですか。

(福田市長)

これはですね、本市のブランドロゴを作った業者と、基本的にロゴと同じ方向性ということで、ロゴをいかに活かしていくかという観点から検討を行い、その業者に委託してこのデザインを作りました。補足はありますか。

(井上オリンピック・パラリンピック推進室担当課長)

ちなみに、皆様に最初にお配りしたパラムーブメント推進ビジョンの裏を御覧いただきますと、ベースとなった本市のブランドロゴ、こちらの川崎市の“川”をイメージして、光の三原色の三色をベースに“パ”というデザインにしました。

(杉山委員)

ポップな感じもありますし、楽しい感じもあってすごく良いと思います。先程あった8月31日にセミナーをやらせていただきますが、そこでももちろん流ささせていただきたいと思います。

(福田市長)

「アクセシブルシティかわさき」の取組をぐるなびさんと一緒にやらせていただいて、その辺りも少しお話いただけますか。

(杉山委員)

実際の調査も大塚さんのところでしていただいておりますので、この後コメントいただければと思いますが、ハード面はなかなか簡単に変えることはできませんが、いつもお話が出るソフト面での「心のバリアフリー」、成田さんがいつもおっしゃっておられますが、そこは各飲食店の意識がすごくあり、そこは川崎のレストランと一緒に伝えていければと思っております。

(大塚委員)

調査をさせていただいた店舗をぐるなびさんに全部ピックアップしていただいたのですが、ありがたいことに半数以上が段差のあるお店で、我々車いすユーザーになると、行きたいところよりも物理的にハード面でバリアフリー化されて入れるお店に行きがちなのですが、見た目からして入れないだろうと思われるところが、「我々、ウェルカムですよ」と言ってくれているのが、今回のプロジェクトの中で選んだ20店舗になるわけです。

今後は、そのようなバリアフリーに関する情報提供をどのようなかたちでやっていくかをぐるなびさんと一緒に協力させていただきたいですし、あとはセミナーの方でも事業者さん側がどのように対応したらよいかということが、取材をしたときに質問が出てきたので、そういった部分を今回の木島さんの講演とパネルディスカッションの方で具体的に描いていければ良いと思っております。

(福田市長)

ありがとうございます。中澤さんもオールジャパンで御活躍され、いろいろ御指導されていると思うのですが、何かコメントいただけますでしょうか。

(中澤委員)

このぐるなびさんの取組は、ずっと昔に、バリアフリーがあるかないかというのを作った頃に関わったことがあり、そのときは日赤と一緒にやっていました。そして今、ようやく具体的な表現ができるようになりました。この車いす以外は、どのように作ったのですか。

(大塚委員)

まずは、車いすユーザーの視点で第1のベースとして、その後どのような展開をするかは、さらに協議を進めていくものであります。

(中澤委員)

全国ベースではもう大分進んでいるはずなので、国交省では、もうガイドラインを作っています。この際、入れた方が多様な方と交流を持つとか、それを入れるのはそれほど難しくない。

あとは、ホテル施設の客室数不足、この話は、日本の現状だと東京都も同じで、ホテルの部屋が全然足りません。IPCが来て、東京は部屋が足りないと言っていました、ホテルシップとして日本の船は使えない。なぜかという部屋が足りないからです。アメリカ船籍の外国船は、アクセシブルルームがあり、いわゆる10%余裕がある。そのようなことを考えてやっている。クルーズ船は日本と全然違います。

(福田市長)

成田さん、コメントをお願いします。

(成田共同委員長)

本当にそうなんです。ホテルの数が足りないんですよ。

(中澤委員)

宿泊室が足りないのです。それをどう解決するか、私は東京都の観光委員をやっていますが、前々から「問題だよ」と言っているのに、今頃になって「そうなんだ」と言っている。3年後に迫っているので大丈夫なのかという感じです。

(福田市長)

中村委員のところから提案をいただいている、英国のパラチームが来たときの宿泊対応の問題があり、まだ解決に至っていないところですが、他に何かこれまでの取組状況等について、御意見等ありましたらお願いします。

(小倉委員)

少しよろしいですか。レストランやホテルについて、いろいろチェックをされているということですが、オーナーがバリアフリーにしてみたいと思ってもお金がかかるという問題があります。そのようなときのための補助金、協力の施策等があれば良いと思います。例えば、補助の条件を決めて、あまり小さなお店は不可能かもしれませんが、少しスペースがあれば車いすが入れるように改修するとか、トイレの改修だけやるとか、補助金のような施策が必要ではないかと思います。部屋とトイレと特に厨房というのは、障害者の話とは別に、イスラムの方がたくさん来ると思います。特に東南アジアのインドネシア

等は、皆イスラム系の方ですから、今年も山田会長のところで講座をやられるということなのですが、いわゆる厨房が別でないとハラール対応ができないので、その店に来ないのです。その厨房の改修の補助金とかをやれば、現在は特定の所にしか行っていないイスラム系の方たちも、そのようなホテルやレストランが川崎にたくさんあったら、必ず旅行社はそこに客を回しますから、まだ3年あるので補助対象を考える必要があるのかと思います。どれだけ川崎市が受けてやろうとするかは別ですけども。

(福田市長)

はい、他に何かございますか。

(横島委員)

「各区スポーツセンターにおける障害者スポーツの取組の推進」ということで、前回、等々力で車いすバスケットの体験をやらせていただいたのですが、障害者の立場でいろいろ新しい施設を作って欲しいと要望が上がっているところなんです。しかし、実際に開かれているスポーツ施設なのに参加が少ない。そのため、こういう所で参加しているいろいろやっているのだから、施設を作ってくださいと言いができるように、私達の方も促進していきたいと思っていますところなんです。明日も水泳教室を開催しますが、それ以降も各スポーツセンターでそれぞれ違うスポーツを体験していただく流れになっていますので、ぜひ障害者当事者の方が大勢参加していただければ先に進んでいかなければいけないことだと考えていますので、今後ともアピールしていきたいと思っていますのでよろしくお願いします。

(福田市長)

ありがとうございます。よろしくお願いいたします。

(成田共同委員長)

明日の多摩スポーツセンターで水泳教室の状況なのですが、現在、どのぐらいの応募があるのでしょうか。

(横島委員)

お恥ずかしいのですが、当初3レーン用意していたのですが、参加が12名ということなので、2レーンあればよいということで、規模を少し縮小させていただいているところなんです。夏の時期であるということに加え、障害者のスイミングクラブがそれぞれに活動しているところなので、人を集めるという段階では、こちらの立ち上がりの遅さもあり、これからは、早めに人数集めをしていきたいと思っています。人集めをする時に目玉がないので、例えば、明日の水泳大会には成田さんがお見えになるなどあれば、参加する方も増えるという考え方もあるんですけども。

(成田共同委員長)

では、次回の時は事前に。

(福田市長)

ありがとうございます。他にございますか。

(山田委員)

9ページの「めざせ！やさしさ日本代表！」というステートメントは、非常に良いと思います。ハード面での取組はいろいろ難しさがあるけれども、ソフトウェア、これは全員が誰でも取り組めることなので、この「やさしさ」を広めていきたいですね。以上です。

(福田市長)

そうですね。ありがとうございます。今、言っていただいたように、このメッセージ、最終的には私たちの行動にかかっている、私たちの中にあるという言葉ですね。正に自分たちの行動、意識に変化を促していくという、非常に自発的なメッセージになっているので、それが本当に根付いていくようにしないといけないと思います。

(小倉委員)

ここに書いてないことでもよろしいですか。

(福田市長)

はい、どうぞ。1期ビジョンの取り組み、振り返りに関することでよろしいでしょうか。2期ビジョンについては、この後でお話しますが。

(小倉委員)

いろいろなパラムーブメントがある中で、外国人の市民代表者会議があるので、そこ連携しながら何かできないかと思いました。直接関係ないかもしれませんが、いろいろな外国人を誘致するのに、宿泊やお食事のことなど、お迎えする外国人にも関わってくることなので、リサーチをするときに外国人の視点も同時に調査していただければ、川崎には代表者会議があるので、歴代の代表者会議のメンバーは100名以上いらっしゃるの、そのようなところに協力していただくともう少し視点が広がるのではと思っています。

(福田市長)

ありがとうございます。先程、申し上げたように、今後、どのようにして市民の皆さんを巻き込んでいくかというプラットフォームの中で、そういった視点はとても大事なことだと思いますので、御協力をいただける方に入っていただくことは大事なことだと思います。

(菊地委員)

そういった意味でも、先程御説明にありました、各区のスポーツセンターでこれから「スポーツデー」という位置付けで障害者スポーツに触れていただく予定です。スポーツデーというのは、今までお話のあったように、「教室」や「イベント」と違い、インクルーシブに一般の方々と一緒に、例えばバスケットを楽しんでもらおうという「個人開放デー」、どなたがいらしていただいても使える場作りをしているので、教室やイベントは我々もいくつかやらせていただいていますけれども、それなりの準備、それなりの人材、それなりの道具を用意してお迎えするということができるのです。スポーツデーにおいて言うと、どなたが来ていただいても OK ということで、今、私は高津スポーツセンターを管理させていただいておりますが、やはり確実にバスケットなんか車いすの個人のお客さんが、このスポーツデーではやっていませんが、日常の月曜日と金曜日にバスケットをやっていて、そこに車いすで個人のお客さんがおいでになるのです。これは、スタッフもまだまだですが、教育をしながらハード面でも準備をしながらお迎えするのですが、感じるのは、一般の方々と一緒にやるので、一般の方々の理解がとても大事だと思っております、我々が心配していたよりは一緒に、その方がフリースローの練習をするときには、少し見守ってあげるなど、すごく上手くいっていると思いますが、そのような雰囲気ができてきて、一般の方の意識が上がってくることは大事だと思、当館としては、その辺に焦点を絞って今やっているところであります。

(福田市長)

菊地さんのところで見せていただいたボッチャ、ゴールボール、卓球バレーなど、本当に年齢も違えば、障害も異なる方たちがみんなで作るというのが、すごくおもしろかったです。

(菊地委員)

周りで見ている方々も一緒に、健常者というか障害のない子どもたちも一緒にその辺を理解してできるという雰囲気はどんどん上がっていくとすごくいいなと感じています。

(福田市長)

ありがとうございます。

(中澤委員)

私もそれに賛成で、サッカー協会と一緒にやっているのですが、サッカーには、車いすからいろいろ7種類の団体があるのです。あれも障害とか関係なしに一緒にやろう。要は、日本は、子どものときから障害のある人とない子どもと、触れ合う時間がないから対応の仕方がわからない。相手がどのようなことで困っているかわからないから、しっかり触れ合えない。そのような意味でスポーツを通じて、一緒にやってみたら面白かった、やってみたら障害者は特別ではなく、我々と同じだったのだと、そしてそこから親しくなって優しくなれる。今度8月20日に障害者スポーツの体験イベントがありますが、良いチャンスだと思います。やはり、このようなイベントは、そこに行こうと思う人しか来ないので、障害者でも障害者の仲間、親戚等になってしまうけれども、みんな来てみたら一緒にやってみようかと思えるところ、それが一番良いのかもしれない。それをあちこちの町でやれば広場を作ってやるといったかたちが良いと思う。それを計画策定に入れ込めると良いと思います。バスケットで3on3や電動車いす体験でもよいし、ブラインドサッカーでも良いし、いろいろなかたちで係わる、交わる事が一番大事だと思うので、それをできるだけ数多くやると自然に盛り上がると思います。

(福田市長)

そうですね。ありがとうございます。今度の20日のイベントの最大の特徴は、今、中澤さんに言っていただいたように、誰かここに来てくださいというよりも、ものすごく人が集まっている所でやるので、買い物をした人たちがちょっとしたきっかけで触れる、体験する機会があるということが大事だと思うので、おっしゃるとおり見える所でやるのが大事だと思っています。

報告についてはよろしいでしょうか。では、次の次第3でございますけれども、資料2のA3横長の「かわさきパラムーブメント第2期推進ビジョンの策定に向けて」を御覧いただきたいと思います。それでは、事務局より説明をお願いいたします。

〈3 かわさきパラムーブメント第2期推進ビジョンの策定に向けて〉

(井上オリンピック・パラリンピック推進室担当課長)

資料2でございますが、パラムーブメント推進ビジョンは、トータル6年間の取組期間となっております。今年度は2年目になりますが、来年度からは新しい第2期のフェーズに入ることと、今年度中にビジョンの改訂を行うことになっております。その見直しの方向性について御説明させていただきます。

「1. 第2期推進ビジョンの骨子イメージ」ですが、現在の第1期推進ビジョンでは、パラムーブメントによって何を指しどのような理念の元に取り組むのか、また、レガシーの考え方といったものが必ずしも明確になっていませんでしたので、2期ビジョンではそこを整理して、右側の囲み枠にありますように、目次のイメージとしては、「1. 策定の目的」から始まって8項目ありますが、4～7項目目にございますように、目指すもの、理念、レガシー(未来への贈りもの)といった考え方を明確にしていきたいと考えております。

「2. 『かわさきパラムーブメントによって目指すもの』と『かわさきパラムーブメントの『理念』』」でござい

ますが、左の囲み枠に、1期ビジョンの該当部分の抜粋をしておりますが、上から3つ目の黒丸の太字部分でございますように、「そこから生まれたのがかわさきパラムーブメントの理念です」と言いながら、その下では、「ムーブメントとして様々な分野に展開していくことを目指しています」とございまして、目指すものの理念が少し整理しきれていなかった部分がございます。

そこで、右側の囲み枠にありますように、主旨は1期ビジョンを踏襲しますが、2期ビジョンでは何のためにパラムーブメントを推進するのかという目的を「目指すもの」と整理し、アンダーライン部分の「誰もが自分らしく暮らし、自己実現を目指せる地域づくり」を掲げ、さらに目指すものの実現に向けたパラムーブメントの基本的な考え方を「理念」として、その下の囲み枠のアンダーライン部分でございますが、「人々の意識や社会環境のバリアを取り除き、誰もが社会参加をできる環境を創出すること」としたいと考えております。

「3. レガシーの整理について」の基本的な考え方としては、ただ今説明した「目指すもの」「理念」を踏まえて、現在のレガシーを整理・統合していきたいと考えており、レガシーを大きく2つに分けたいと考えております。

その1つが、「パラムーブメント自体の推進によるレガシー」、これは、例えば「心のバリアフリー」とか「ユニバーサルなまち」といったようなレガシー、もう1つは、「大会の価値を活用した課題の解決によるレガシー」、これは、例えば大会を契機に本市の海外からの観光客が増えるといったものですが、この2つに大きく整理したいと考えております。併せて、可能な限り数値目標を設定したいと考えておりますが、この数値目標は、必ず達成すべきものということではなく、市民と行政みんなで取り組む続けるための指標として位置付けていきたいと考えているところでございます。

「4. 取組期間について」でございますけれども、現在、取組期間は2年ごとに3つのフェーズに分けておりますが少し課題がございまして、1つには、パラムーブメントというのは、大会の成功そのものを目的とはしていないのですが、2期の名称が「大会を成功させる取組期間」となっておりますように、現行の3つのフェーズが大会の開催を強く意識されておまして、少し整合性が図れていないということ。2つ目には、取組期間が2年ごととなりますと、次の3期ビジョンを検討する際に、本市の総合計画の実施計画のスケジュールと合わないということになり、事業調整が困難になることが想定されますので、2期ビジョンは5年間の取組としたいと考えております。それでは、次のページを御覧ください。

「かわさきパラムーブメントの目指すもの」と「理念」の概念イメージになりますけれども、左の図では、真ん中の赤い部分に「目指すもの」とございまして、「誰もが自分らしく暮らし、自己実現を目指せる地域づくり」というのがございまして、円の左側、まずファーストステップとして、「障害の特性の理解」から始まり、それが時計回りで「心とハードのバリアフリー」につながって、バリアフリーが進むことによって上の「社会環境によるバリアの無い暮らし」につながるという、そして自己実現ができるようになり、右の社会参加につながり、例えば、ボランティア活動あるいは働くということによって税金を納めるといった価値を生み出して、それが生活に対する社会保障、いわゆるセーフティーネットを支えていくことにもつながっていくというような循環を目指していくものでございまして、それには、下にありますように大会の価値を最大に活用していくというイメージになります。

なお、資料左側の「障害の特性の理解」の部分に【課題】とございますけれども、「社会が障害をもたらしている」という考え方を、子どもから大人まで正しく理解してどのように行動に移していくか、また、知識として障害の特性を知ることと実際に体験、実践することの両輪をどう回していくかが、この好循環のファーストステップであります「障害の特性の理解」においてポイントになってくると考えております。

また、右側の緑色の部分は、2期ビジョンの全体構成のイメージなのですが、1番目に「目指すもの」、その下に「理念」、そして「レガシー」と「取組」、その横に「取り組む視点」という構成になっております。雑駁ではございますが、説明は以上でございます。

(福田市長)

はい。今の説明について御質問、御意見をいただければ幸いです。

今後、これはパブリックコメントで市民の皆さんから幅広く意見をいただくこととなりますけれども、まずは、各委員の皆さんから御意見をいただければと思います。

何かここは違和感があるという感じでも結構です。

(横島委員)

よろしいですか。

聞き逃したのかもしれませんが、ここでいう「セーフティーネット」は何を表しているのでしょうか。

(井上オリンピック・パラリンピック推進室担当課長)

社会へ参加することによって「価値の創出」というのがございましたが、例えばそれが、働いて税金を納めることになった場合に、その税金がセーフティーネットを支える原資になっていって、それが循環の中の1つで回っていくというイメージです。

(原オリンピック・パラリンピック推進室長)

例えば、社会保障というか福祉制度でいろいろ制度があり、そのようなものの資源になり得るといことです。障害者全ての方がこのような循環になりませんし、それぞれ障害の種別や程度によってというのはありますが、大きな概念イメージとして、このように回っていく社会を作っていきたいということです。例えば、生活保護は、最終的なセーフティーネットと国の制度でなっておりますので、そのようなことにも貢献できるというイメージです。

(福田市長)

でも、このサイクルは、障害当事者の方たちのサイクルではないですよ。いわゆる社会全体のサイクル、パラムーブメントのサイクルを示しているわけですよ。

(小倉委員)

よろしいでしょうか。今、市長がおっしゃったように、いわゆる障害者側と一般の側からの視点が少しごちゃ混ぜになっている気がします。それで、「心とハードのバリアフリー」は、社会で、一般の子どもから大人までやらなくてはいけないとか、対象がそれぞれに社会への参加で全市民が入るのか、どこに焦点をおいているのかは、それぞれのところで重点が違うような気がします。その辺のところは何かお考えがありますか。

(中澤委員)

やはりこれは、全市民が対象になっていいと思います。障害があるから違うというのはおかしい。

(福田市長)

そうですね。

(中澤委員)

みんながそれぞれ支え合い、社会の仕組みの中でみんなが関わっている、そういう世界であつたらいいと思う。今までは、障害者というだけで、それから全部外れていたところに一番問題があつたわけです。今回、このサイクルの中に障害者がサポートを受ける側だけでなく、そこに積極的に関わっている存在でもあるということを皆にまず理解してもらおうということが、このサイクルの意味だと思います。

だから、障害者は、いつもセーフティーネットに頼らなくては生きていけないというのではなく、障害者でも、いろいろな人いろいろな状況があり、身体がどんなに動けなくても、それぞれの社会で市民としての役割を果たしていけるんだと、そういう社会にするために助け合っていくべきだということだと私は思っています。

(福田市長)

そうですね。これは、正に障害当事者の概念ではなく、いわゆる全市民の話なので、例えば、障害特性を理解する人は、健常者の人たちの話ではなく全ての市民ですね。障害をお持ちの方も他の障害をお持ちの方のことも理解する必要があるという、全く分け隔てのない世界だという説明でいいですよ。

(原オリンピック・パラリンピック推進室長)

今、おっしゃられたように全市民を対象にした考え方なのですが、横島委員の御質問が障害者協会の方でしたので、そこに着目をしての意味だと思って私がそのようなお答えをしたので、少し誤解を与えたかもしれませんので、申し訳なかったと申し添えたいと思います。

(福田市長)

もしかしたら見方によっては、全市民が対象でないふうに見られてしまう可能性もあるかもしれないので、少し言葉の表現等、誤解のないように整理しましょう。

(小倉委員)

例えば、これはこれで、この周りに、例えば障害者の方が吹き出しでこうとか、高齢者の方ならこうだねというような、イメージがわくような補足説明があれば、正しく理解できるのではないかと思うのですが。

(福田市長)

そうですね。少し正しく理解できるような見せ方、わかりやすさが必要かもしれませんね。

(中澤委員)

世代を超えてということで、高齢者や障害児だけでなく、子育ての世代とか、いろいろな年齢のいろいろな分野に向けた注釈とか、分かりやすい事例とかを書いてあると、市民の方は理解しやすいと思います。この資料だけだとちょっとわかりにくいだろうなと思います。「セーフティーネット」という言葉自体もそんなに市民権を得ているというほどのものではないと思います。その辺も少し分かりやすくした方がよいと思います。

～田中氏(須藤委員代理)着席～

(福田市長)

ありがとうございます。

(菊地委員)

資料左上の『『障害の社会モデル』の考え方における『バリア』の解消』のさらに下の【課題】のところの薄い字で、「社会が障害をもたらしているという考え方」とありますが、この表現では、障害者と健常者の間に、正にバリアがあるような感じを受けてしまいます。もともと、このようなものがないインクルーシブな障害の理解や、障害が大きいとか小さいというような受けとめ方をされないような表現が良いと思っています。

(中澤委員)

「社会モデル」という言葉自体がわからないと思います。だから、例えばどういうふうにか書けばいいかというと、「世の中に障害がある。その障害とは何か」というのを具体的に記述があるとわかりやすいと思う。今までの利用モデルと違うのは、まず利用モデルとは何かとか、それから、よく「障害を持つ人」

というのが、これは「持つ」のではないのです。障害者が生きていく上で「障害がある人」というのが正しい表現。日本の場合、それがわかっていないからごちゃごちゃになり、障害がわかる、わからないというのがあるのですけれども、例えば、障害物競走をするのに障害という言葉を使わないようにするというのは、僕らからすると障害というのが悪いもののように扱われているように思ってしまう。社会に優しさも含めて、いろいろな市民の気持ちに分け隔てがないようになればよい。その辺りをもう少し分かりやすく説明してもらい、我々が言っている社会モデルは何なのか、それも含めてもう1回その辺を詳しくやっていかれた方が良くと思う。考えていることはすごくわかるけど、市民一般の方にはわかりにくいと思う。

(福田市長)

そうですね。

(菊地委員)

ここに「社会が障害をもたらしているという考え方」と書いてありますけれども、正にそう思っていて、全員、何らかの障害を持っているわけで、別にある人・ない人ということではないと思います。私自身も皆さんも恐らく何かしらの障害がある中で、その「社会が障害をもっている」、正にこのような考え方の表現が難しいのですが、もう少し上手にできると良いと思います。

(中澤委員)

社会モデルではなく、先程言ったように「生きにくさ」とか「不便さ」とか、それは皆にあるので、「そのようなものは、みんなそれぞれあるのですよ」と、そのような事例を上手く出してあげると、社会モデルとはどのようなものを先ずは謳ってみると良いと思う。ベンチャーや企業は盛んにそのようなことを考えているけれども、それは何なのかとかかわからないですから。かわさきパラムーブメントとは、普段は意識として皆持っているの、これを見て何となくいいかなと思うし、私も文句ないと思うけれども、市民のことを考えると、これは確かにわからない人が多いだろうと思う。そうなる私たちわからないから関係ないということになって、それが一番危険だと思う。このようなメンバーで話していると皆、お互いに分かっているつもりでいるのですけれども、できるだけ皆にわかりやすく、先ほどの「パ」マークはその意味でも本質的にわかりやすかったと思います。市民にお伝えできるようなものを上手く作ってください。この絵を見せることは良いことだと思うが、絵がわかりにくい、言葉に紛れてしまうと厳しいかなと思います。成田さんは、どう思いますか。

(成田共同委員長)

私が今思ったのは、金子みずぶさんの言葉の中に「みんな違ってみんないい」と言う言葉があるのです。今、それが「みんな違ってみんないい、確かにそうだな」というのを思い出していました。だから、分かりやすい言葉だったら、子どももわかるし、大人もわかります。難しい言葉では大人がわかったとしても子どもはわからないので、だったら子どももわかる簡単な言葉の方が良いのではないかと思います。

(福田市長)

それは大事ですね。

(中澤委員)

これも先ほどのように簡単に説明できるような動画にすると印象に残るのではないのでしょうか。

(福田市長)

そうですね。とても大事なご意見だと思うのですが、誰もがわかるためには、本当にわかりや

すく、子どもでもわかる表現の仕方、わかりやすさが大事だと思うので、もう一度検討ですね。

(原オリンピック・パラリンピック推進室長)

はい。

(小倉委員)

それから、いわゆる行政の専門用語を使わないことです。普通の市民の言葉でないと、せっかく書いてもわからないということですね。

(中澤委員)

先程説明のあったところの、一連のサイクルの図について、論理的にこうだからこうで、だからこうでというふうに、うまく流れになっているのですけれども、でも具体的なことが見えてこないというのがあって、解説をこの中に込めていただくと、たぶんこちらも含めて通じるようになる。そのところをどう伝えるかだと思う。

(福田市長)

わかりました。ありがとうございます。なんとなくふわっとしたいいい話なのだけれども、何のことなのかよくわからないという話だと意味がないということですね。おっしゃるとおりだと思います。

(山田委員)

「3. レガシーの整理について」のところなのですが、パラムーブメントというのは、先程の障害のある人もない人も、将来、3年後の延長線上で、正に「めざせ、やさしさ日本代表！」だと考えている。「やさしさ」、皆が将来ずっと、正にシンプルで市民全体が障害のある人もない人も助け合って、やさしく、川崎にいれば「やさしいまち、かわさき」、これで、川崎に住みたい、川崎に行きたい、川崎で働きたい。これこそ我々が持っている「やさしさ」が「川崎らしさ」だとすると、それこそがレガシーではないかと思えます。

(福田市長)

ありがとうございます。山田委員がおっしゃった話や金子みずぶさんの話は非常にわかりやすいことですが、それが具体的にどういうふうなことというのが「やさしさ！日本代表！」につながるのですか、といったところをちゃんとわかりやすく説明してあげるということですよ。たぶん皆、なんとなくそのような議論でしょう。

(中澤委員)

「やさしさ」とすぐく言われますが、やさしさとは何かを私に説明してというと、「車いすを押すこと」と思う人が多いのです。それは、ありがた迷惑なのです。要は、今、何に困っているのか、本当は皆が理解し合えなくても、あえて「やさしさ」と言わなくても、実は、欧米では「やさしさ」は関係ないのです。皆が良いタイミングで良いサポートをしてくれるのです。日本よりもっと進んでいます。日本では、皆わからないから引いてしまうのです。やさしさを出そうという気持ちはあっても、「やさしさ」は発揮しないと伝わらないものです。でも、全然違った方向で発揮してしまったから、伝わらないのです。そのような意味で、今、たまたま隣に座った車いすの人に「この人、どう困っているのかな」とたぶん知らないから思ったりするのです。それをたぶん大塚さんは思いっきり背負い込んでいるわけで、大塚さんや僕みたいに口が達者な人はいいけれども、そうでない方はいっぱいいて、そのような人の方が普通多いのです。そのような気持ちが理解できるように、さっきもおっしゃっていた、スポーツを一緒にやることにより知り合える。その取組が広がっていくこと、それだけでわかり合える。日本は勉強するというが、障害のことについて勉強するのではなく、気づき、感じて、それが当たり前心の中にちゃんとしっかりいつもあ

るという状態になる。

このパラムーブメントの流れは、正にそれを実現できる仕組みを考えていくことかと思います。この資料は、少し全体に言い方が悪いですがお役所的な感じがします。もう少し市民の言葉でお子さんからおじいちゃんおばあちゃんまでわかりやすく表現できるものに作っていただき、もっと簡単にA3、一枚で説明できるような形にした方が市民に広がりやすいと思います。書いてあることは素晴らしいけど、市民はここまでわかるのかと思ってしまいます。先程、市長がおっしゃったように、市民の心に届けるには、もう1回原点に戻ってわかりやすくしてもらいたい。

(福田市長)

ありがとうございます。

(菊地委員)

簡単に言うと、ここにも「子どもから大人まで理解する」と書いてあるのですが、子どもはあまり理解していないと思います。でも、実は子どもたちの方が一緒に遊べるし、一緒にスポーツできるし、何のバリアもなく違和感もなく楽しそうにやっている姿は確実に現場であります。別に子どもは、勉強もしていないし意識もしていないと思うのですが、そういう感覚をむしろ大人がしっかり子どもから学んで、わかりやすく我々が皆さんに提供できるかということだと思います。

(福田市長)

実は、今週水曜日に総合教育会議がありまして、教育委員と意見交換をしたのですが、そこで、「支援教育について」がテーマの1つになっていて、その中で教育委員の皆さんから言われていたのは、かなり子ども達は感覚的にそのようなものがあり、川崎の小・中学校は、全学校に支援級があるので、それは全国的にも非常に珍しいケースなので、きわめてインクルーシブな教育がされている。そのような意味では、かなり普通になっている、ただ、子どもたちは普通になっているのかもしれないけれども、大人の方が問題で、むしろ子どもたちの感覚を大人が阻害しているのではないかと、邪魔しているのではないかと意見も出たりするぐらいでした。その意味では、子どもたちはもちろんですが、大人たちもいかに機会を作っていくかということかもしれませんね。北條さん、教育から見るといかがでしょう。

(北條委員)

今、ここでやろうとしていることは大変ですよ。どうしてもこのような「理念」と「概念」を言葉でやろうとするから非常に難しい。子どもと一緒にやっているのだけれども、むしろ障害者の親の方が問題で、「あの子と一緒にやっていると自分の子どもは進まない」みたいなことを言うが、子どもは全然そのようなことは思っていない。私は、個人的に支援級の子もたちと畑をやっていますが、一緒に楽しそうにやっているが、大人はやらないのです。一緒に体験することがよく、理念をやろうとするより、実際に体験することで自分が出来る範囲で少しずつやっていくことがよい。あまり、大義に構えとお金もかかるし簡単にいかない話なので、頭で理解しようとするのではなく、体験しようということを重要視した方がいいのではないかと気がしました。

(中澤委員)

芋掘りに親子で参加して、参加した親子の中には、障害のあるお子さんやその親もいる。親同士もそれなりに障害者の親とそうでない親との交流もなかなかないと思う。だから、親同士もお互いに理解し合うというのが一番良い。何でも面白いことを一緒に体験できるとよい。

(福田市長)

そうですね。

(杉山委員)

今のお話の延長で、私も「自己実現を目指す」は良い言葉だと思ったのですが、「自己実現とは何」と感じて、仕事を持つことなのかとか、その辺りこれから具体的にしたいと思います、「仕事を持つ」ということであれば、川崎市はキングスカイフロントとか、先進的な動きをやっていらっしゃる、これからAI時代、IOT時代だと言われるときに、いろいろなかたちの働き方のチャンスが増えて、すごく良い時代に、大変ですがチャンスも増えてくると思っていて、働く環境とか、教育なのか、最先端を学べるとか、体験できるような、そういったことも川崎市らしいメッセージになるのではないかと考えています。それで、そもそも「自己実現」というのが、ここで何を「自己実現」として定義されているのか、自分の中では解釈をどうしたらよいかと思いながら聞いていました。

(福田市長)

自己実現は、自分の目標みたいな話なので、どう生きたいか、人それぞれなので、人によっては仕事であったり、あるいは違うものかもしれない。そういう意味での「自己実現」の定義の仕方だと思う。今、言っていたような「川崎らしい特徴」というものを仕事場とかいろいろなところで活かしていくというのは、先ほどの中澤委員のお話ではないのですが、もう少し具体的に書いていったら、働き方がこう変わるのではないかとというような話と理解してよろしいでしょうか。

(杉山委員)

はい。この資料の「3.レガシーの整理について」で、数値目標をできるだけ置いていくと、それは必ず達成するのではなく目標値とするというときに、どう数値を置いていくのかというのが、先程からのお話に出ている具体化、例えば仕事、働いている数にするならば、全国で一番多い何%を目指すとか、高齢者の数も含めてなのかわかりませんが、そういう数値目標にどうつなげていけばよいのかが見えにくかったのですが、これからの議論になると思うのでそこが重要かと、先ほどの原オリンピック・パラリンピック推進室長の話も含めて、私も感じたところです。

(福田市長)

ありがとうございます。役所的に言えば、この政策をやるためにこの政策目標があって、数値目標を決めて、それについてどの事業をやっていくかと言ったときに、単純に数値で表せるものと、数値で表すのがそもそも難しいものと両方あり、そこは切り分けていけないと思う。もう少し先に進んだ議論になっていくと思います。

まずは、この概念イメージというのは、今まで御意見をいただいたように、よりシンプルに分かりやすく、そして分かりやすさのための具体的なものを書き込んでいくかたちで、もう1回整理をさせていただきたい。成田さんそれでよろしいでしょうか。

(成田共同委員長)

はい。大丈夫です。

(福田市長)

それでは、そういうかたちにさせていただきたいと思います。御意見、本当にありがとうございました。それでは、次の資料3に移らせていただいて、「かわさきパラムーブメントにおける市民参加の取組について」ですが、先程から申し上げているように、多くの市民のみなさんに関わっていただいて、いわゆるムーブメントとして持続させていくための方策について、委員の皆さんから御意見をいただきたいと思っています。それでは、簡単に事務局より説明をいたします。

《 4 かわさきパラムーブメントにおける市民参加の取組について 》

(井上オリンピック・パラリンピック推進室担当課長)

それでは、資料3を御覧ください。現在のパラムーブメントを推進している外部組織としまして、推進フォーラムがあるわけですが、その役割としては、左の囲いにございますように、各分野の第1線で御活躍されている有識者で構成されている会で、市長への助言やパラムーブメントの理念の確認、ビジョンの策定、進捗管理、意見といったところを担っていただいておりますが、資料右側にある【課題】としては、全市を挙げての市民のムーブメントとしていくためには、市民を主体とした取組を進める必要があると認識しているところがございます。そのためには、下にございますように、「多様な主体が参加しパラムーブメントを持続的に推進するためのプラットフォーム」、環境整備ですとか基盤づくり、仕組み、仕掛けづくり、そういったものが必要と考えております。

具体的な検討課題としては、4つほどございますが、1つが「ムーブメント」としていくためには数百人規模とすることが望ましく、これまで地域活動に取り組んできた人も、特に取り組んだ経験のない人も大勢の方に集まってもらうにはどうすればいいのか、また、2点目は、障害のある・なしに関わらず、子どもから高齢者まであらゆる人が関わるようにするためにはどうすればよいか。3つ目、2020年を過ぎてもパラムーブメントの理念を踏まえた取組が持続していくためにはどうすればよいか。最後に、より効果的に実施できる適切な単位は全市単位なのか、区単位なのか、それとももっと別の単位なのか、というようなことが課題と考えられておまして、上の表題にもありますように「ゲストからキャストへ」ということですが、ここではパラムーブメントを進めていく上で非常に重要な部分でございます、「どのように市民参加を促して、さらにより主体的に関わっていただくにはどうすればよいか」ということにつきまして、皆様からの御意見ですとか御提案をいただきたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

(福田市長)

これにつきましては、事務局提案としては、あまりにも形がないものをお示していて、あまりこのようなかたちはないと思うのですが、あえてこのような御提案をしています。ここにいる方々は有識者の皆さんですので、市民を巻き込むためにはどのような手法が望ましいのか、ある意味さらな状態で少し御意見をいただけないかと。資料に「検討課題」として書いてある、数百人規模がよいのか、どれくらいの規模がよいのかも、行政としてはこういう単位で、こういうふうなものをいつもやっている話ですが、そのようかたちで果たしていいのだろうかということも含めて、ざっくばらんに御意見をいただいて、どうやったら市民を巻き込める、巻き込まれるというか、みんなが主体となって参加していくことになるのか、少し御意見をいただければと思っております。

先程、小倉委員からお話があった「外国人会議を巻き込んでいったらよいのでは」というお話もありましたし、今までのこういう全市的なところでは、全ての各種団体の皆さんに委員に入っていて、という流れになるのですが、果たしてそういうやり方がこういうムーブメントに望ましいのか、あるいは、本当は一般的な日常生活をしている何の組織にも属していない一般市民がここに入って来るような組織になるのは少し違う様な気がします。そうすると、どういう仕掛けづくりをしていくのが良いのかを、皆様、様々な御経験をお持ちの方たちなので、アイデアを出していただければと思います。

(大塚委員)

質問なのですが、様々な施策を打ち出したときに、パブリックコメントは、総数でどのくらい来るものなんでしょうか。

(福田市長)

これは、案件によってバラバラでして、平日頃からパブリックコメントをやっているのですが、少ないのは数件の場合もありますし、案件によっては100を越えるものもあります。

(大塚委員)

パブリックコメントの常連さんみたいな方はいらっしゃるのでしょうか。どんな政策にも毎回とりあえず口を出される方はいらっしゃいますか。

(福田市長)

それは、いないと思います。

(大塚委員)

ちょっと思ったのですが、私の地元ですと、毎回パブリックコメントに書き込んでいる方が何名かいらっしゃって、その方たちはものすごく地元を愛しているが故に言いたくなってしまう方で、本当にフラッシュアイデアで申し訳ないのですが、そういった方々に限定するかは別として、公募で、例えばかわさきパラムーブメントの親善大使みたいなものを川崎市で公募して、例えば10名とか公募して、推進していくプロジェクトに何かしら参加していただくというのを仕事としてやっていただくというのも良いのではないのでしょうか。

例えば、アクセシブルシティかわさきで取材を行うときに、ボランティアで来てもらって感じてもらう、パラスポーツやってみるキャラバンにも行ってみるということを一つの義務付けではないですけども、年間このようなスケジュールでいくので、これには必ず来てくださいというものから、そういう方々は発信するのも上手いと思うので、そういったものをSNS等で拡散していただいたり、一般市民の皆様にも共感を得るようなかたちでやることができれば、親善大使みたいなかたちでやるのは非常に面白いのではないかと思います。

(福田市長)

なるほどですね。おっしゃるとおりです。

(中澤委員)

地域でそれぞれ問題意識は皆違うと思いますが、やっぱりいろいろな共通の問題意識を持っている。取組の頭をやっている人たちは自らのお休みも削って活動されているのですが、そのような活動をしている人たちを支援する助成金制度を、それこそ5万円からなのですが、それを支給する審査委員をやっています。皆、問題意識を持っていて、障害者の問題もあるし、高齢者の問題もあるし、その活動をしている人たちを中心に、もうムーブメントを起こしている人たちもいて、実は結構横のつながりがあるのです。

川崎の中でもお互いに知らないで活動している方を市でつなぐお手伝いをしていくことを進められるような状態に既になっている。その人たちを活動に移していくためにどう支援するか、つなげるのか、お金を出すというのではなく、例えば、ミーティングや打ち合わせをやるとか、みんなで集まりイベントをやろうというときに場所がない。それを市の施設を開放すると話をするなど、そんなことからまずやっていけるかと思います。それをきっかけにだんだん大きくなって、結構いろんな地域で同じようなことをやっているところがあるので、結び付けると広がりができる。他に市民の中から動きのあるものに火を付けてあげるのが効果的だと思います。

(福田市長)

なるほど、ありがとうございます。楽しいものには人は集まってくるじゃないですか。そういう意味では、楽しいことをよくやっているチッタの川辺さんや、あるいは今日須藤さんの代理で来ていただいている田中さんとか、そういった楽しいことに人が集まってくることを経験している方たちから少しコメントいただいてよろしいですか。

(川辺様(土岐委員代理))

この後、御説明させていただく資料に通じるところもあるのですが、我々も今、いろいろな取組に L GBTや障害者の皆さんに参加いただくイベントを始めさせていただいておりますけれども、トライアル & エラーで、日々、発見や勉強させていただく毎日でありまして、最終的には、全ての方々に参加いただけるようなプラットフォームに仕立て上げていかなくてはいけないと思っております。どうしても啓蒙や情報発信というところを先行していかないと多くの方々を巻き込むアクションにつながりにくいということで、それをどの程度のかたちでやっていくのがよいのか、いつも悩みながら 1 回ずつやりながら考えていくことを正にやっているところです。

(田中委員(須藤委員の代理))

代理のピープルデザイン研究所の田中です。途中からの出席なので、お話する方向が違ったら申し訳ないのですが、多様な人たちが主体的に参加をするには、宮前区の子育て支援プロジェクトをやっているのですが、私たちは縁の下の力持ちというかたちで、あくまでもお母さんたちを主体にして盛り上げています。そこではお母さんが自分たちで動くことによって、それがいかに社会や地域に役立っているかというところがやり甲斐になっていたり、お母さん方が活動することでどのようなメリットあるのか、しっかりこちら側から提示して理解してもらってやるのが大事なのではないかと思っております。集まる人は、その場にやり甲斐を求めたり、人とのつながりとか楽しみたいとかお金を求めて来る人もいますが、それぞれが求めることをしっかり汲んであげながら、活動をするに当たってメリットを提示してあげることが大事だと思っております。また、活動の継続支援、環境等、参加する方々のモチベーションを上げていくために、私たちのような組織が支えていくことが大事だと思っております。

(福田市長)

ありがとうございます。

(北條委員)

私どもも文化関係でいろいろな事業でボランティアや参加者を募ることがあるのですが、大変なのが広報ということで、お金なども広報で集めたりするのですが、これは結構難しい内容です。新聞広告を出したら何人集まるとか、マスコミならとかいろいろやるのですが、その結果はなかなか取れませんが、今、私どもがやっているのは、3つあります。1つは、講座を開いて、まずは知ってもらってそのことを好きになってもらい、そのことを楽しみにしてもらおう。特に芸術組合では、例えば芝居作りはどんな苦労をしているか、そういう人に来て話してもらい、その苦労を知ってもらうことで芝居も好きになる。好きになって楽しむためには、もう一歩参加してください。もう一歩、チラシを配ってくださいとかチケットの販売を手伝ってくださいなど、そういう方向でいくつかやっているところですが、それが割と堅い人たちが来ます。勉強することによって講座を受けることによってそれが好きになる。一回好きになった人は、もう何十年もやるというかたちがいくつかあります。

もう1つは、ロコミということで、この150万大都市でロコミを通じるのかと思いましたが、実際の経験でやった中では、ロコミはやっぱり通じます。例えば、映画などでは、毎日朝100人ぐらい来る例がありますが、それはどうやっているかという、広報よりはロコミで、これは私事ですが、女房の行動パターンを見ていると、電話がかかってきて「あんたあれ観た?」「あれ面白いよ」「あれ美味しいよ」と電話がかかってきて動くパターンが非常に多いです。私は交流がないのでほとんどきませんが、ロコミをやる、1人が2人、2人が4人とネズミ講ではないですが、多くの人がある可能性があり、それをやっていく手が1つあり、市政だよりでポンと募集するよりむしろ地味にロコミをやっていった方が効果もあるような気がします。

もうひとつ、先週変なことが2つあったのですが、1つはミュージアムで音楽イベントがあったとき、そのデッキに猛烈に人がいて、誰かが来るのかなと思ったら「ポケモン」でした。ポケモンが出た途端に、何百人と人が集まっていて、翌日は、今度は生田緑地に人がいっぱい集まっているのですね。ですから、ウェーブというのは、逆に今、ロコミと言いましたけれども、ウェーブのロコミというのも非常に大きいか

も知れない。どういうふうにあんなに集まるのか私には分かりませんが、専門家の方も沢山いらっしゃると思いますので、そういうようなロコモのロコモ、ウェーブによるロコモみたいなもの、その核になる人をどのように探してくるのかで拡散の方法がものすごく違ってきていて、それで動きが出ればその動きがムーブメントになるだろうと思いますので、ムーブメントは自然発生的な動きがなければだめであろうと思いますので、参考にしていただければと思います。

(福田市長)

例えば、市民参加型のプラットフォーム、パラムーブメントの市民委員的なかたちになったときに、それは例えば分科会ではないけれども、文化プロジェクトに参加したい人たち、あるいは、スポーツ関係で参加したい人たち、アクセシブルのようなまちづくりに参加したい人たちとかたちで、何をやるか、それについて自分たちも参加したいというようなプロジェクトベースで人をたぐり寄せていくかたちが良いのでしょうかね。どう思いますか。菊地さんのところでは、結構ボランティアやいろいろな取組をされていて、御経験などありますでしょうか。

(菊地委員)

少し長くなってしまいますが、前々回ぐらいに資料を付けて説明しましたが、今、3年目に入るプロジェクトで、文部科学省から「地域における障害者スポーツ促進事業・普及促進事業」をやっております。今年、ちょうど3年目でまとめる時期であります。3年間やってまいりまして、川崎オープンエアプロジェクトというのを提案させていただいております。

内容を簡単に言いますと、川崎オープンエアプロジェクトとは、「枠がないからわくわくできる」をコンセプトに、社会の側にある障害という枠をなくし、誰もがわくわくできるオープンエアな社会を実現するプロジェクトということで、実行委員会、ワーキンググループを作って、今、2年半やったところです。

考え方としては、「1人1人の違いがわくわくの原動力。あなたがこのプロジェクトに参加するとき、新しいわくわくはもう始まっています。プロジェクトの目的としては、社会的な課題の発見、解決のパートナーとして1人1人がつながり、誰もが気楽に利用できる、ここは地域スポーツクラブといっていますが、プラットフォームを拠点に様々な活動を展開、障害は人にあるのではなく、人と人との関係、つまり社会の側にあるという考えの下、社会全体の成長に貢献をいたします。」というのが考え方で、様々なイベントとボランティア活動を続けておりますけれども、その中で今年まとめているのが「オープンエアメーカー」というサポーター制度を作っております。マニュアルと漫画の絵本的なものを作り、1時間程度の講習会を開いて、勝手に修了証を作らせていただいて、基本的に高津区民会議の中で高津区を中心に10ヶ所・10回ぐらい講演会をやり、少しずつサポーターを増やすことをやっていて、サポーターの方々に様々な日常への教室へのサポーターとしての参加ですとか、イベント時への参加をお願いして、そういう意味では確実に仲間が増えているということで、この中にも数値的に私どものクラブに1,300人の会員さんがいらっしゃる中で、その4%、52人の障害のある方を教室で受け入れるという数値目標を作って、今、38人、働いていただいている方が4人いらっしゃるって、確実にそこに近づいているということで、オープンエアメーカーサポーター制度を川崎の制度として広げていって理解をしていただくということができれば良いと思っております。もう少しするとまとまりますので提出させていただきます。皆さんにまた検討していただければと思います。

(福田市長)

ありがとうございます。ロンドン大会でのゲームズメーカー、これは大会の運営を自ら主体的にサポートしていくという人たちの集まりですね。こっちは大会ではないので、いわゆるムーブメントを自分たちが主体となって作っていく人たちを一人一人増やしていくと、ムーブメントが目指している理念の社会に近づいていくというようなプラットフォームづくりはどのようなものかということなのですが、それぞれに参考になる御意見をいただいたと思います。まだ、他にありますでしょうか。

(成田共同委員長)

ふと思っただけなのですが、例えば、パラムーブメントのステッカーを作って、そのパラムーブメントに賛同してくれる例えばレストランとか、全然バリアフリーではないけれども、うちは来てもらって大歓迎だと言ってもらったお店にステッカーを貼ってもらって、知らない人が「何ですか、このステッカーは」と言ったら、お店の人が、「うちは、バリアフリーじゃないんだけど、気持ちはウェルカムなんだよ。」と言うような、そういうのはどうでしょう。杉山さんがいらっしゃるので、よくいろいろなシールがお店に貼ってありますよね。レストランって何だかわからないシールも貼ってあったりして、でもそこに例えばこの「パ」のシールが貼ってあったら、「何だこの『パ』は？」となって、「へー、そういうことがあるんだ。確かにこのお店、バリアフリーでないけれど、ちゃんとお店の人がわかってきているんだ」というのもありだと思いました。

(福田市長)

そういう仕掛けもありですね。

(成田共同委員長)

全く知らない人が知るきっかけになるのが一枚のシールだったり、もちろん完璧なバリアフリーのお店にも貼っておいてもらって、全然バリアフリーでないけれども気持ちがバリアフリーなお店にも貼るとか。

(福田市長)

なるほど、それは面白いですね。

(杉山委員)

それは、できると思います。商業施設も含めてできると思います。

(成田共同委員長)

そうしたら、市内にいっぱい「パ」のシールが増えていって、そしたら「うちのお店も貼ろうじゃないか」という気持ちが出てきて、バリアフリーではないけれども「もし何かあったら俺たちがなんとかするよ」みたいな前向きな考え方に変わっていってくれたらありだと思う。

(杉山委員)

今の成田さんのお話を聞いて思ったのは、その中で1年に1回「パ」フェアではないですけど、「パ」グルメではないですけども、商店街やレストラン、いろいろな小売店も巻き込んで、パラムーブメントのイベントをやって、その時には、川崎市以外の方が外に出て、いろいろな場で障害者の方も皆さんが触れ合える場として、1年に1回か2年に1回そういう動き、イベントとかをして、参加するレストランもどんどん増えて、そこに参加する人もいるのが楽しくなるとか。「パ」フェアでいいのかは別ですが、何かイベントを仕掛けると参加型になるかもしれない。

(福田市長)

なるほど、その意味では、人を任命していくアプローチだけでなく、レストランなり商業施設なり、そういう切り口もあるということですね。

(中澤委員)

今のは、きっかけはシールを貼るだけでコミュニケーションが始まるわけですね。これが「バリアフリーじゃなくて、どのようなウェルカムなのかな」と思って聞いてみたら、「いらっしゃいよ」と言われ、それで安心できる。マークを貼るだけでなくマークを通じてコミュニケーション、逆に分かりにくい方が良い

かもしれない。聞こえない人もこんなことをやっているんだよとか、みんな何もかもできなくてはいけないのではなくて、気持ちがあって、どんな気持ちがあるのか、「このお店だったらこんなことやってくれるんだ」というのがわかる。でも色々な人が来たら「こんなこともできるんだ」と思いついて、どんどんバージョンアップしていければよい。そんな流れで「パ」をぜひやってみたら面白いかもしれない。

(杉山委員)

さっきおっしゃっていたSNSのロコミ拡散に自然になりますよね。ハッシュタグ「パ」を付けてと言ったら、どんどんみんなそれに合わせて、イベントだったら広がっていくと思う。そして、レストランには「パ」メニューを作っていて、「『パ』って何」と言ったときに、この「やさしさ！日本代表！」にちなんだやさしいメニューを作る。それは、身体にやさしいのか、心にやさしいのか、そういうのを作っていただくと、どんどん拡散していくというのはあるかもしれないし、楽しいかもしれない。

(中澤委員)

そういうお店が増えればいろいろな人が来てくれる。みんな1人1人違うから、お店の方もすごくいいチャンスになる。お店もお客さんが増える。

(川辺氏(土岐委員代理))

この間、ぐるなびさんで、車いす対応しているお店の情報を提供していく試みの中で、実際うちのお店でもそうなのですが、車いすに対応し始めたらベビーカーで来るお客さんが増えたというのがあったりするんですね。お店では、対応するのに何らかのコストだったり、人的配慮だったり、いろいろなものがかかってくるので、一概に押し付けることはできないのですが、事業者さんそれぞれが実感としてお客さんが増えたとか、たまに車いすの方が来てくれるようになったということでお金だけでない嬉しさ、やって良かったということがあるので、それをどんどん推進していったり、「うちがこういうことをやったらこういうことが生まれたよ」というのが、また横のお店とかに広がっていくことで取組がどんどん進んでいく部分があると思います。

(中澤委員)

ホテルのバリアフリーって、いつもハードがどうか言うけれども、ソフトも。ただ、何をやったらどれだけの人が助かるとか入るようになったとか、そういうのを体験することが大事。その体験するためのきっかけづくりに最低限の意識はなくてはならない。今まではどうしてよいかわからないから、どう変えたらいいのかと思っていたのが、そのマークをやるのはいいかもしれない。「パ」のホテルバージョンもよいかもしれない。

(福田市長)

なるほどですね。面白いですね。成田さんのシール話からすごい展開がこんなに出てきましたね。

(成田共同委員長)

看板作るとかではなく、シールだったら安いかなと思ったのです。

(小倉委員)

それで思い出したのですけれども、国のパラリンピックの委員会から、川崎市にイベントの時に応援プログラムのマークを貼ってくれと市民文化局から市民活動センターに依頼がきましたが、それと同じような感じなのかと思いました。

(福田市長)

ありますね。

(小倉委員)

私は川崎コンパクトでマークを作って、市民活動のイベントのときに各団体の上に「うちは、コンパクトの会員です」というのを貼ってもらって、「これって何」というのを他の団体さんが聞いて「実は、かわさきコンパクトなのですよ」ということで、「これに入ればこのようなメリットがありますよ」というのを今やっています。だから、成田さんがおっしゃった、この「パ」のマークを使えばすごく普及すると思います。

(福田市長)

今いただいた意見で、人を巻き込んでいく手法について、いろいろなアプローチがあると御意見をいただいたので少し揉ませていただきたいと思います。

(山田委員)

今の成田さんのシールが正にやさしさのひとつで、やさしさはいろいろ、100人いたら100のやさしさがあると思います。正にやさしさにつながると思います。

(福田市長)

そうですね。本当に言われたようにコミュニケーションのツールの1つになりますよね。そこから始まるという。ありがとうございます。ここで何か正解をとうかたちではないので、今の御意見を元に、少し検討させていただきたいと思います。

それでは、委員からの新規提案ということで、須藤委員からということですが、まず土岐委員の代理の川辺さんから「川崎 CITTA' “虹” Project 2017」について、御説明をお願いいたします。

《5 委員からの新規提案について》

(川辺氏(土岐委員の代理))

「川崎 CITTA' “虹” Project 2017」について、御説明させていただきます。1枚目は、企画主旨についてで、報道等でも出ていますが、LGBT の方は100人に7、8人位いらっしゃるということで言われております。こういったムーブメントの主旨に弊社としても賛同しまして、基本的に対応する活動をしていきたいと、昨年から取組を始めさせていただいております。

LGBT の方々にどういったアプローチをすればよいのかは、非常に難しいテーマではあるのですが、弊社はエンターテインメントを軸にした会社ですので、映画であるとか音楽であるとかそういったカルチャーを中心にして上手く皆さんと一緒に協業できる形がないかとトライアンドエラーを繰り返しながらですが取組を進めさせていただいている途中でございます。

次のページを御覧いただきまして、具体的に進めているプロジェクトの御案内になってございます。1つ目が「今めかしないと」という弊社のクラブチッタ ライブホールを使ったクラブパーティイベントを昨年8月に1回目を開催させていただきまして、今年の先々月までに3回展開させていただきました。

新宿2丁目でバーをやっておられるJURIさんというDJの方を中心にイベントをプロデュースしていただいております。各回300～350人ぐらいお越しいただいているようなイベントになっております。これは、LGBTの方だけではなく、「アライ」と言われる理解のある方々もたくさんいらっしゃっていただいているイベントとなっております。

2つ目にチネチッタでのレインボーシアターということで、弊社の映画館を使った映画の上映イベントを展開しております。今年の1月に初めて開催しまして、「今めかしないと」と同時開催で2回目を展開させていただきました。今年の6月は、「ジェンダー・マリアージュ」という2014年のアメリカの映画でございまして、同性愛者の方々の結婚の権利を求める裁判を描いたドキュメンタリー映画です。こちらの企画の開催については、川崎駅前にあります丸井さんと協力しまして、1階でこの映画の告知をするコーナーを設けていただいたり、あとは「今めかしないと」の会場の中で、丸井さんのLGBTの方々

向けのグッズを並べていただくような展開をしたりということで、地元の協業を少しずつ始めさせていただいているところでございます。

続きまして4ページ目、こちらも先日、イベント同時開催ということで、市内の企業、LGBTの取組を始めたい、始めようと考えられている方々向けにセミナーというかたちでイベントを開催いたしました。こちらも弊社の施設内の飲食店を使って皆様にお集まりいただいたところでございます。具体的に「ダイバーシティ」ですとかLGBTの取組をどのようなところから始めていけばよいのかということ、LGBTの人材の紹介や支援を手がけられているNijiリクルーティングさんに御協力いただきまして、様々なお話をさせていただいたイベントでございます。こちらは、川崎市さんを始め、いろいろな企業の皆さんにお集まりいただき30名の方々の御参加をいただきました。

以上が、これまでの取組の御紹介ということでございまして、今年、新たに取り組ませていただく取組ということで、資料中「実施イベント案②」の御案内になります。

第21回カワサキ ハロウィン2017におきまして、LGBTの方々であるとかに御参加いただくハロウィンパレードを実施したいと思っております。これは、渋谷でゴールデンウィーク近辺に行われております「東京レインボー・プライド」というLGBTの方々の地位向上を目指したワールドワイドなイベントを主催する方々に御協力いただき、開催して参りたいと思っております。パレードに関しましては、全体に2,500人参加しますが、最後の隊列に200人位の枠を設けて、そちらにLGBTの方々、レインボー・プライドに参加している方々に御参加いただきながら、川崎市民の皆様にもLGBTの取組の情報発信をできるような場をカワサキハロウィンという注目される場で設けたいと考えて、制作準備を進めているところです。

続いて6ページ目でございますけれども、昨年、カワサキハロウィンのパレードにおきまして、オリンピック・パラリンピック推進室の皆様にご協力いただきながら、車いすでの御参加をいただけるような取組を始めさせていただいております。その車いすの方々の参加の取組を今年もさらに進めて参りたいと思っております。昨年は、合計5名の車いすの方に御参加いただき、うち3名は近くの特養老人ホームのおばあちゃま方に御参加いただきまして、すごく喜んでいただけましたので今年もまた車いすを使っている御老人だけでなく、たくさんの方に御参加いただけるような告知、情報発信に努めてまいりたいと思っております。また、昨年は、キッズパレードの参加枠も設けていましたが、お子さんの車いすユーザーには御参加いただけなかったため、今年も御参加いただけることを目指しております。

また、次の「杖、義手、義足などでの参加者の誘致」という点については、どうしても日本の障害をお持ちの方たちですと、どちらかというと義手とか義足はなるべく隠して人に見せないというマインドが日本の中にあると思うのですが、この仮装というイベントが入ることで恥ずかしくなく、ありのままの自分らしさを見てもらうようなアプローチができないかなというところで、ここに関してはビープルデザイン研究所さんに御協力をいただきながら、今年一緒に「Diversity & Inclusive」というテーマでやらせていただこうと思っている次第です。以上のようなかたちで、LGBT並びに障害を持つ方々にも御参加を積極的にいただけるようなカワサキハロウィンの展開にしてまいりたいと思っております。

最後に、「中村キース・ヘリング美術館とのコラボレーション案」というところでございますが、キース・ヘリングは、1980年代のアメリカのアーティストでアンディー・ウォーホルやバスビアであるとか、ストリートアートやグラフィティ・アートを最初に始めたパイオニアと言われていまして、本人もLGBTで最終的にはエイズで亡くなるのですが、その彼の作品をコレクションしている美術館が山梨県にありまして、そこが世界で始めてキース・ヘリングの作品しか置いていない美術館ということで、LGBTに積極的に理解を示されてブランドとして採用もそうですし、先程おっしゃったレインボー・プライドにも積極的に参加されている美術館でございます。今回、その中村キース・ヘリング美術館さんとも何かしらでLGBTの取組のところを積極的に進めようということで、ハロウィンでも現在企画を進めているところでございます。

チッタからのご報告は以上です。

(福田市長)

はい、ありがとうございました。続いて、田中さんからお願いいたします。

(田中(須藤委員代理))

お時間が迫っているので、簡単に御説明させていただきます。まずは、資料に入る前に、パラムーブメントの一環として進めさせていただいている障害者の就労体験プロジェクトですが、今年度も引き続き実施しており、昨年度実績としては、年間で48企画行いまして、ホームレスの方なども新たに参加して486名が参加しました。そのうち、正規就労者が59人出ていて、参加者の10%を越える方が就労意欲の促進につながり、企業の障害者雇用枠での正規就労にもつながったという結果を残せましたので、まずは御報告をさせていただきます。

そして、この企画書の「シティミュージアム企画案」というのは、ページを1枚めくっていただいて、街中の壁や工事中の仮囲い、地面も含めて本物のアーティストの方と、海外から招いても良いと思うのですが、そのような方々と地域の子どもたちと障害のある方が一緒に絵を描いていく、そういうものをアートミュージアムに仕立てたら良いのではないかと思います。日時・期間・場所・費用・対象は、明記のとおりで、今、落書き禁止ばかり目立ってしまっていますが、こういう青空の下で壁とか地面とか大きなキャンパスにいろいろな子どもたちとか障害者が混ざり合いながら、絵とかアートを媒体にした笑顔やコミュニケーションが生まれていくのではないかと考えております。

次のページはアーティスト案で、うちのイベントにも参画していただいているファッションとか音楽とか企業さんの仕事を請け負っているライブペインティング等も得意とするアーティストの人たちを呼んだら良いのではないかとという案です。

次のページの事例は、上が弊研究所で渋谷区で行っているイベントの写真なのですが、道路を歩行者天国にして、アーティストの方と子どもたちが一緒に日本理化学工業さんのチョークを使って絵を描くというものです。それで、一番右が、描き終わった後に皆で掃除をして、綺麗になりましたねということで終了になります。こうしたイベントをやっております、毎回、大変好評でどんどん落書きスペースが大きくなっている状況です。また、下の方は、日本理化学工業さんが御自身でやっていらっしゃるものの写真を掲載させていただきました。電車に「キットパス」という布で拭くと消えるようなクレヨンで絵を描いたり、商業施設のガラス等に絵を描くのも良いのではないかと思います。

次のページは、絵を描いているところをあえて見せるというライブペインティングも良いのではないかと。また、トークショーも一緒にやるとイベントとして盛り上がるのではないかとという御提案です。

そして、もう一つの企画が、舞台「幸福な職場」というのがございまして、ページを一枚めくりますと、2009年から始まって毎年1回公演されているのですが、川崎の日本理化学工業さんをモデルにした舞台演劇で、これを観る側だけでなく、演じる側もやってもらうと良いのではないかと。それによって障害者理解の促進になるのではないかとという御提案です。A案、B案、C案とあるのですが、A案は、純粋にプロの方々をお願いして上映会を行い、市などがその冠スポンサーとなつていただくかたち、B案は、中高生の演劇部に演じてもらって、各校で同じ物を演じながら各校で発表するというもの。C案としては、演劇部への指導に入るのもよいのではないかと。

次のページは、「幸福な職場」とはどのような舞台かという参考資料が書いてあります。以上、御説明をさせていただきました。

(福田市長)

はい。ありがとうございました。それぞれエンターテイメントとかアートとかのアプローチからダイバーシティの取組に関する御提案をいただいたということでございます。少し時間の制約があつて、ここは、御質疑なしとかたちでもよろしいでしょうか。すみません、よろしく願いいたします。それでは、その他ということで、事務局から「英国事前キャンプ受け入れに向けた取組」について、簡潔に説明をお願いいたします。

《 6 その他 》

(1) 英国事前キャンプ受け入れに向けた取組について

(一ノ瀬オリンピック・パラリンピック英国事前キャンプ担当課長)

それでは、資料5の「東京2020大会 英国事前キャンプ受け入れに向けた取組」について、現時点の状況を御説明申し上げます。まず、英国オリンピック委員会(BOA)との契約締結でございますが、平成29年3月21日に英国オリンピック代表チームが、事前キャンプ地である本市、横浜市、慶應義塾大学とBOAとの間で、使用施設や利用期間等、施設の使用に関する事項のほか、英国との交流事業など川崎市とBOAが協力して取り組む事項について契約を締結したところでございます。

また、英国のパラリンピック委員会との調整状況についてでございますが、こちらにつきましては、これまで視察などを行いまして、本年4月7日付けでBPAのCEOから市長宛てに、本市における事前キャンプ実施の意向を記した趣意書を収受したところでございます。今後、正式にBPAと調整を開始いたしまして、覚書締結に向けた協議を行ってまいりたいと存じます。以上でございます。

(福田市長)

はい。このこともよろしいでしょうか。報告事項でございます。議題については以上となりますけれども、ここであえて本日共有しておきたいことがございましたらお願いいたします。

(横島委員)

お手元に「平成29年度 第1回川崎市だれでもスポーツ広場」というチラシがあると思います。これは、富士通スタジアム川崎で誰でも参加できるスポーツを開催するというので、昨年も2回ほど開催したところなのですが、今年も富士通スタジアム川崎で第1回を開催いたします。大変残念なことに8月20日なのです。ラゾーナの方から、ぜひこれを宣伝していただいて、こちらのイベントに流れて来ていただきたいと思いますので、かわさきPARAフェスはネームバリューがありますけれども、こちらは本当に誰でも御参加できるスポーツをやるということですので、ぜひ宣伝をしていただけたらと思いますのでよろしくお願いいたします。

(福田市長)

バッティングしてしまったことをポジティブに捉えて、しっかりとお客さんを西口から東口に流すという取組にしたいと思います。時間も重なったのですね。

(横島委員)

うちの方が早いのですけれども。

(福田市長)

わかりました。ありがとうございます。他にございますでしょうか。

最後、成田共同委員長から何か、よろしいですか。

(成田共同委員長)

はい。大丈夫です。

(福田市長)

議題は以上になります。今日は、本当に私の進捗が悪くて時間が延びてしましまして申し訳ありませんでした。大変、良い貴重なご意見をたくさんいただいたと思いますので、しっかり受け止めさせていただいて次につなげていきたいと思っております。本当にありがとうございました。進行を事務局に戻します。

(原オリンピック・パラリンピック推進室長)

はい、ありがとうございました。

次回の推進フォーラムでございますが、12月上旬頃の開催を予定しております、その際には、骨子でない第2期推進ビジョン案をお示しできればと思います。今日の御意見を踏まえながら反映させていただければと存じます。最後になりますが、冒頭にもお話いたしましたように、議事内容を追って事務局から皆様に確認の御連絡をさせていただきますので、御協力の程よろしく願いいたします。

本日は、長時間にわたり、ありがとうございました。これで推進フォーラムを終了させていただきます。ありがとうございました。